

・学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	静岡市立城北小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	4	3	4	0	23	30
児童数	137	126	136	122	115	124	0	760	

・研究の概要

1. 研究主題

つきたい力を確かに身に付けさせる授業

2. 研究内容と方法

(1)実施学年・教科

<p>《研究推進教科および学年》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生：国語科 学習ルールが身につき、様々な小集団活動に取り組み始める学年であるとともに、学習全般の基礎である国語科で実践することは、その効果が大きいと思われる。 ・ 4年生：算数科 急激に学力差が生じてくる学年であるとともに、特に整数における加減乗除の完成、及び小数、分数の導入など重要な位置づけにあり、その効果が大きいと思われる。 ・ 5年生：理科 課題選択学習が多くなり、付随して個別の実験も増える学年であるため、その効果が大きいと思われる。 ・ 全学年モジュール学習、算数・国語(基礎・基本の定着を図るため)
--

(2)年次計画

平成14年度	<p>テーマ 一人一人に「確かな学力」を保障する ～算数科を通して～</p> <p>仮説 個に応じた指導の充実を図り、子供たちに「分からなかったことが分かるようになった。」「できなかったことができるようになった。」と実感させれば、子供たちは分かる喜び、できる楽しみを味わい、達成感、充足感、有能感を抱くとともに、算数学習における自信を生み、算数学習が好きになる。「好きこそもの上手なれ」の例えのとおり、結果として学力が向上する。</p> <p>研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 算数科学力向上方法の開発 <p>研究方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中心的、先導的な研究 4年生 ・ 個に応じた適切できめ細やかな指導の展開 (習熟度別少人数学習集団を編成し(3学級5集団)一人一人の児童の力をより伸ばすために適切な教材を用意し、今まで以上に個に寄り添い、その子の持てる力を可能な限り伸ばすよう努める。)
--------	---

	単元に応じた T T、少人数指導、少人数習熟度別指導の展開 - 5 年生
--	--------------------------------------

平成 15 年度	<p>テーマ つきたい力を確かに身に付けさせる授業</p> <p>仮説 教材の特性に応じて学習集団を目的別集団や少人数集団に編成するなど、個に応じたきめ細かな指導をすることにより、子どもたちは学びの基礎・基本を得ることができるとともに、自信を持って新たな問題解決の意欲を高め、さらなる学びを発展・深化させていく力を身につけることができる。</p> <p>研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 算数科、国語科、理科の 3 教科における学力向上のための教材開発、指導方法の工夫 <p>研究方法 教科の特性に応じた少人数指導の工夫 教材の特性に応じた学習集団の効果的な目的別編成（T T、コース選択、習熟度別など） 子供一人一人を見取った単元構想と適切な課題の設定および支援 評価規準を基にし、的確な支援を行うとともに、成果の数量的把握も平行して行う。 (指導と評価の一体化)</p> <p style="text-align: center;">今年度より全校態勢でこの研究に取り組むこととなり、そのため本校の研究テーマをそのまま学力向上フロンティア事業のテーマとした。</p>
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ つきたい力を確かに身に付けさせる授業</p> <p>仮説 教材の特性に応じて学習集団を目的別集団や少人数集団に編成するなど、個に応じたきめ細かな指導をすることにより、子どもたちは学びの基礎・基本を得ることができるとともに、自信を持って新たな問題解決の意欲を高め、さらなる学びを発展・深化させていく力を身につけることができる。</p> <p>研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 算数科、国語科、理科の 3 教科における学力向上のための教材開発、指導方法の工夫 <p>研究方法 教科の特性に応じた少人数指導の工夫 教材の特性に応じた学習集団の効果的な目的別編成（T T、コース選択、習熟度別など） 子供一人一人を見取った単元構想と適切な課題の設定および支援 評価規準を基にし、的確な支援を行うとともに、成果の数量的把握も平行して行う。 (指導と評価の一体化)</p>
----------------	---

(3)研究推進体制

平成 14 年度

学力向上企画推進委員会（委員長少人数担当、4 年担任、5 年担任、6 年担任）

- ・ 委員長が企画立案しながら、先導できるように級外に位置づけている。

平成 15 年度以降

学力向上企画推進委員会

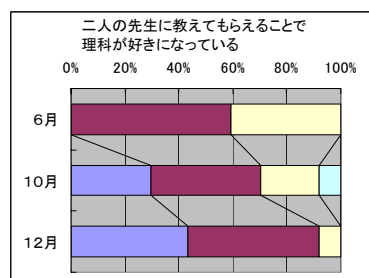
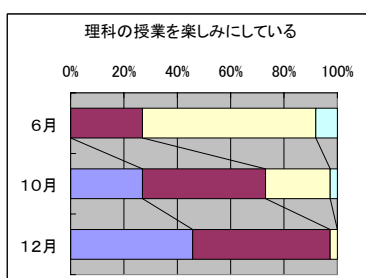
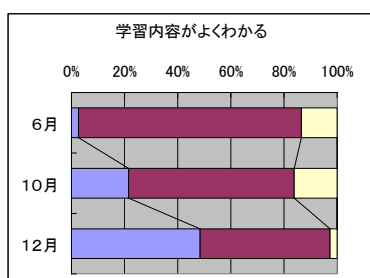
（委員長：研修主任、国語科・算数科・理科 各少人数担当 4・5・6 年部）

- ・ 研究の成果を拡大させるために、学力向上推進委員会を研修推進委員会内に設置したり、各少人数担当を級外に位置づけたりするとともに、教務部との連携を一層密にしていく。

・ 平成 15 年度の研究の成果及び今後の課題

1、研究の成果

- ・ 子ども達の意欲的な授業に取り組む姿勢がより強くなっているとともに、その姿勢が少人数指導以外の授業場面でも見られるようになってきている。（資料：例 理科アンケート結果より）



- ・ 「単元や教材に応じた柔軟な授業形態の工夫」や「目的及び課題別コース編成」などの授業改善により、国語科、算数科、理科それぞれの教科における「つきたい力」が身につけ始めている。
- ・ 子ども達の表れを的確に評価し、個々の子ども達の「つきたい力」を見極め、授業改善することにより、職員一人一人の授業に対する意識改革が生まれ、校内のあらゆる場所で研修が日常化されたことにより、指導技術の向上が確実に見て取れるようになってきた。

2、今後の課題

- ・ 身に付き始めた各教科におけるそれぞれの「つきたい力」を、今後も授業改善を続けていくことにより、「学びを発展・深化させていく力」も向上させていく。
- ・ この実践研究自体、複数の教員が歩調を合わせて子ども達の指導にあたるため、今後は、どのようにしたら効率よく共通理解を図れるのかという点についても工夫していく。
- ・ 特に発展的指導コースでは、子ども達同士の関わりあい高め合いについても授業改善していく。

・ 学力等把握のための学校としての取組

- ・ 日々の授業で、評価規準表を基にしながら、個々の学力の把握と適切な支援に努めている。
- ・ 座席表を活用し、個に応じたきめ細かな指導を心がけている。
- ・ 各単元事前テスト、事後テストを行い、学力の把握に努めている。
- ・ 全学年定期的な学力調査の実施（年 1 回）

・ フロンティアスクールとしての研究成果の普及

授業公開等予定

平成 16 年度

- ・ 研究成果発表（授業公開・研究内容及び成果発表）11 月末実施予定。
- ・ テーマ「つきたい力を確かに身につけさせる授業」
- ・ 中部地区管内市内全小中学校に通知する。

HP 作成等の今後の予定

- ・ 学校 HP に、研究の経過・成果をアップする予定。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 1 5年度からの新規校 レ 1 4年度からの継続校

【学校規模】 6 学級以下 7 ~ 1 2 学級
 1 3 ~ 1 8 学級 レ 1 9 ~ 2 4 学級
 2 5 学級以上

【指導体制】 レ 少人数指導 レ T , T による指導
 レ 一部教科担任制 その他

【研究教科】 レ 国語 社会 レ 算数 レ 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 レ 有 無

【城北小 HP アドレス】

<http://www.jyouthoku-e.shizuoka.ednet.jp/>

【城北小 E メールアドレス】

admin@jyouthoku-e.shizuoka2.schoolnet.gr.jp